

(様式1)

自己評価表

愛媛県立川之江高等学校
学校番号(1)

教育方針	(1) 豊かな知性と創造性、果敢な積極性を育てる。 (2) 自他を敬愛する人権尊重の精神と誠実な人間性を育てる。 (3) 豊かな情操と感性、たくましい体力を育てる。 (4) 国際的な視野に立ち、変化に対応できる柔軟性を育てる。 (5) 地域社会に貢献する意欲と実践力を育てる。	重点目標	「社会に貢献できる人材の育成」 — 生徒一人一人が主役として輝く学校 地域に信頼される学校を目指して —
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	家庭学習習慣の確立	週当たり1年20時間・2年25時間・3年30時間 各目標時間の A: 100% B: 90%~ C: 80%~ D: 70%~ E: 70%未満	E	各学年、あと一歩D評価に届かず(1~4%)。1年I型、2・3年文Iは目標達成。1年生は入学当初に比べ10%程度、家庭学習時間が向上。	探究活動・進路研究・校外模試などが家庭学習に含まれることを生徒に周知徹底する。また、主体的な家庭学習を促す働きかけについて、各教科で検討・実施して教育課程研究委員会で報告し、職員会議資料で共有する。
	分かる授業、主体的に学ぶ意欲を育てる授業の実践	授業公開、研究授業、相互授業参観等を通じた授業改善への取組 A: 100% B: 90%~ C: 80%~ D: 70%~ E: 70%未満	A	100%の教員が、授業改善に取り組んだと回答した。 教科の垣根を超えた相互授業参観の実施や、他校での授業改善研修などに積極的に参加し、日頃から分かる授業の実践、改善に取り組んだ。	次年度も本年度以上に、教科の垣根を超えた相互授業参観の実施や、他校での授業改善研修などに積極的に参加したい。 本年度もコロナの関係で中学校への出前授業を中止した。来年度は、川之江地区の2つの中学校への出前授業を実施したい。
	A I時代に対応した学力の育成	読書力を伸ばすための授業内容の工夫、授業展開におけるICTの導入 A: 100% B: 90%~ C: 80%~ D: 70%~ E: 70%未満	A	100%の教員が、読解力の工夫やICTの導入に取り組んだと回答した。 本校では本年度も5分前登校を徹底させ、毎日10分間の朝読書を行っている。本年度全教室に電子黒板が導入されたこともあり、校内でもICTを活用した授業研修会が何度も行われた。	本年度も情報処理課のリーダーシップの下、ICTを活用した授業研修会や、他校での研修会に積極的に参加した。次年度も分かる授業実践の為、ICTを活用した授業実践、授業改善に向けた研修会の実施に努めたい。

進路指導	確かな学力の修得と進路実現	進学率100%、国公立大学合格者50名以上 A : 50名以上 B : 40名～ C : 30名～ D : 20名～ E : 20名未満	D	国公立大学23名合格。	生徒数の減少に加え、高校入学時から国公立大学への進学希望者が減っていることが課題である。入学時から学ぶ意欲を高め、高い目標に向かわせる指導を行う。
		就職率100% A : 100% B : 90%～ C : 80%～ D : 70%～ E : 70%未満	A	就職希望者37名中37名内定。四国中央市を中心に全ての就職希望者について内定をいただくことができた。	就職に向けた指導を充実させることで、生徒の就業意欲の醸成に努め、就職率100%になるようにしたい。
人権教育・生徒指導	自他を尊重し、互いの人権を認め合う態度の育成	人権意識を高め、いじめを起ささないための取組：年間10回以上 A : <u>12回</u> B : <u>11回</u> C : <u>10回</u> D : <u>8～9回</u> E : <u>7回</u> 以下	A	人権に関する講演会や研修会、ホームルーム活動、アンケートを15回以上実施した。いじめを早期発見し解決する取組ができています。	保護者への呼びかけ、ホームページでの発信などにより、生徒、教職員、保護者ともに常に人権意識を高める環境、機会の構築に努める。
		異校種間・異世代間交流学習：年間8回以上 A : <u>10回</u> 以上 B : <u>9回</u> C : <u>8回</u> D : <u>5～7回</u> E : <u>4回</u> 以下	A	「中学校での活動発表会」2回、「オープンスクールでの中学生との座談会」1回、「川之江先輩塾」4回、「地域おこし協力隊との協働学習」7回、合計14回実施した。	中学校での体験発表会は定着しており、次年度も続けて実施したい。「川之江先輩塾」などの総合的な探究学習については、次年度以降も積極的な活動をうながしていきたい。
	公共性とコミュニケーション能力の育成	交通事故発生件数：年間0件 A : 0件 B : <u>1～4件</u> C : <u>5～7件</u> D : <u>8～10件</u> E : <u>11件</u> 以上	C	交通事故が5件発生した。登下校時の事故であり、交通ルールの徹底、命の大切さをより伝えていきたい。	地域や警察と連携し、事故の多い箇所を把握し伝えていく。交通安全教育と命を守る教育の推進に努める。
		出前授業、出前講座（高大連携）：年間8回以上、遠隔授業：年間8回以上 A : <u>10回</u> 以上 B : <u>9回</u> C : <u>8回</u> D : <u>5～7回</u> E : <u>4回</u> 以下	C	出前授業、出前講座については8回実施した。今年度は以前のように外部講師を招いて対面で出前授業を行えるようになった。遠隔授業については希望者に大学や専門学校の公開講座などを紹介している。	出前授業の回数については増やすことが難しいので、内容や時期を見直しながら効果的な実施に努めたい。

特別活動	個性と能力を生かした心身の鍛錬	部活動加入率80%以上 A : 100% B : 90%~ C : 80%~ D : 70%~ E : 70%未満	C	今年度の部活動加入率は82.9%であり、昨年度より0.5ポイント増となり、本年度の目標は達成できた。	生徒数減少、指導者の不足に対応できるよう部活動の精選と部活動の活性化の両立を図りたい。
	地域に生き、地域を愛し、地域とともに歩む心の育成	ボランティア活動・地域行事への参加：年間平均1人2件以上 A : 3件以上 B : 2.5件~ C : 2件~ D : 1件~ E : 1件未満	C	一般ボランティアが287名、インターハイが795名、延べ1082名が参加した。年間では1人当たり2.1回の参加となった。特にインターハイ関連で本校生徒の積極性や意識の高さが高く評価された。	ボランティアへの意識は高いと思われるが、一般ボランティア募集は年間20件程度、各10名前後であるため、母体自体がまだまだ少ない状況である。校内発信のボランティアも工夫して実施したい。
業務改善	働き方改革の推進と職場環境の整備	業務の効率化による勤務時間外労働時間の削減：昨年より年間20%以上削減 A : 40%以上 B : 30%~ C : 20%~ D : 10%~ E : 10%未満	E	昨年度、今年度の4月~12月までの勤務状況を比較した。1人当たり1か月の平均勤務時間外在校時間は、昨年度が51.4分、今年度が49.2分で、約4%の減少であった。目標達成までにはいかなかったが、一応の成果はあった。	昨年度に比べて今年度の勤務時間外労働時間の削減は目標を達成できなかった。今後も更に業務の改善やICTを活用するなど勤務時間外労働時間の改善を図る為の取組を行いたい。
		<u>教職員のメンタルヘルスケアの充実と、働きやすい職場環境づくり</u>	C	学校評価アンケートにおいて、94.5%の教職員が学校への満足度が「そう思う」と答えた。ほとんどの教職員が誇りをもって勤務していると評価できる。	今後もテレワークや、年次有給休暇をとりやすい職場環境作りに努めていきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。